



特集(3)：中国・遼河の浄化への人々の叫び

第1回アジア・太平洋水サミットに向けて、シンガポールのアジア・メディア情報・通信センター (AMIC) は、アジア・太平洋地域の水と衛生問題についての特集を制作しました。第1回アジア・太平洋水サミット事務局ではそれを和訳し、12月のサミットまで発行いたします。今回はその第3弾となります。

今週は、中国主要7水系の1つである「遼河」の悲惨な状況をお伝えします。かつては「母なる河」と呼ばれた中国北東部に位置する遼河は、今では工業排水によってひどく汚染されています。中国政府は浄化に励んでいるものの、今尚状況は深刻です。

第1回アジア・太平洋水サミットは2007年3月4日に大分県別府市で、アジア・太平洋地域の49カ国・地域から首脳級・各界のリーダーを招いて開かれます。全体テーマ「水の安全保障：リーダーシップと責任」のもと、各国・各界のリーダー達が議論します。

また、様々なトピックに関するセッションも予定されています。

- 水に関する行動へのCEOの責任:ダボス会議において、コフィ・アナン前国連事務総長による提案で組織された国連グローバルコンパクトが主催します。アジア・太平洋地域のリーディングカンパニーのCEOを招き、企業におけるCSRと水の重要性について議論します。
- 発展と生態系のための水:持続的な経済システムと経済発展の促進のため、政策の実施、灌漑設備の近代化、統合水管理、気候変動への適応について議論します。

※ 本サミットは日本コカ・コーラ株式会社、キャノン株式会社などによる協賛と、アジア開発銀行や日本国政府などの協力を受けています。

※ アジア・太平洋水フォーラム (APWF) は「水インフラと人材育成；水インフラと人材育成に焦点を当てた各種計画の促進」、「水関連災害管理；水災害に対する脆弱性の克服」、「発展と生態系のための水；健全な発展と水辺の生産向上のための保全と再生」をテーマとしています。

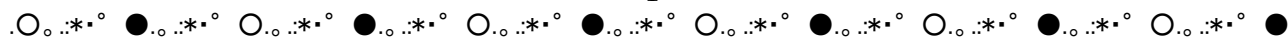
第1回アジア・太平洋水サミットの取材をご希望の報道関係者（記者、カメラマン、ラジオ、テレビ等）は、事前登録をおこなってください。事前登録申込用紙は<http://www.waterforum.jp/jpn/summit/press/>または<http://www.apwf.org/press/>から入手して下さい。

サミットプレス登録に関するお問い合わせ先：

第1回アジア・太平洋水サミット事務局プレスデスク (株)コンベンションリンケージ内
TEL：03-3263-8698 FAX：03-3263-8693 E-mail：press@waterforum.jp URL：<http://www.watersummit.jp/>

サミットに関するお問い合わせ先：

第1回アジア・太平洋水サミット事務局 日本水フォーラム内
TEL：03-5212-1645 FAX：03-5212-1649 E-mail：press@waterforum.jp





中国・遼河の浄化への人々の叫び

By Jie Cao

鉄嶺 (*Tieling*) ... 「私がまだ幼かった頃は、家に客が来ると、川で網を張って魚を捕っていたものだ。様々は種類の大きな魚を、たくさん捕まえることができた。当時は、大きな柳の木が川の土手に連なり、夏には村の住民がその木の下で涼をとることができた。」と思い返すのは中国北東部の村に住む 70 歳代のシェさん。シェさんは、3 千万の中国人を養う遼河の支流である Tiaozi 河について語る。今では魚もおらず、土手には草木も生えていない。魚の腐敗臭が漂い、排泄物の実にいやな色に染まった、河と言うよりは野外排水路といった感になっている。



Lian 川

「ここ 10 年間で、化学汚染物質を含んだ上流からの廃水によって、魚だけではなく、土手の木々まで滅ぼされてしまった。今では住民達でさえ誰もこの川に近寄ろうとしないし、風の強い日は悪臭が家の方まで漂ってくる」とシェさんは話す。

遼河水系は、中国中央部の北東にある遼河とスンガ

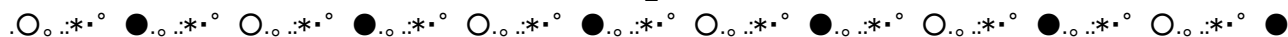
リ平原の南部、遼寧省や内モンゴルを流れており、全長約 1,350 キロメートルで、中国主要 7 水系の一つである。しかし、かつては中国北東部の「母なる川」であったこの川も、産業開発によって酷く汚染されてしまった。1996 年以降、中国政府が浄化に取り組んではきたものの、未だ状況は深刻である。全国人民代表大会 (National People's Congress; NPC) の下にある中国国家環境保全委員会の委員長であるマオ・ルバイ氏は、今年 8 月に行われた第 29 回全国人民代表大会で、国内の水質汚染状況報告において、遼河は未だ深刻な状況にあると警告した。



“下水道”と呼ばれる川

水質汚染の指標である化学的酸素要求量 (Chemical Oxygen Demand; COD) は、遼河流域で 1995~2000 年にかけて減少していたが、それ以降は増加の傾向にあり、2006 年には目標レベルから 76%あまりも大幅に超えていた。全国人民代表大会の委員であり、鉄嶺市長でもあるザン・ジンチエン氏は、「遼河流域は重工業、エネルギーや穀物生産地帯が広がる重要な地域である。しかしその汚染は、人々の生活や出産に悪影響を与え続けている。この汚染問題に対処し、沿岸の住民と動物が清潔な水を飲めるようにすることが最も重要な課題である。」と本取材に答えた。

「人々や動物たちは、汚染された水をここ 10 年





飲み続けている」と、桶に入った真っ黒な水を指しながら、汚染被害を受けている村に住む女性が話す。その水は村の井戸から汲み取ったもので、そこから周囲数マイルにある井戸は全て汚染されているという。「私の首を見てごらんなさい。」名前を公表することを拒むその女性の首には、卵大の腫瘍があり、井戸水が原因であるという。

遼河流域は石炭、石油、鉄、銅、鉛やマグネシウムの鉱物資源が豊富で、ここ数十年の間に工業都市化が進んでいる。中国水利部下の Songliao 河水資源委員会の技術長であるジュ・ゼンジア氏は「遼河流域に広がる産業地帯の主体となっているのは、化学工場である。」と言う。

継続する深刻な汚染の主な原因は、未処理廃水の放出である。マオ氏のレポートによると、遼河の支流である Zhaosutai River の汚染原因はその支流である太子河に排出される四平市からの下水である。中国北東の吉林省にある四平市は、毎日 8 万トンの汚水を排出し、そのうちの 4~5 万トンは処理されるが、残りは直接太子河に流される。

遼河のもう一つの支流である渾河は、中国北東地域で一番大きい重工業都市である瀋陽を流れている。マオ氏のレポートによると、政府役人による現地調査が瀋陽市の下水処理工場で行われた際に、毎日瀋陽市で排出されている 117 万トンの汚水のうち 75% は処理されているが、40 万トンは未だに渾河に未処理のまま流されていたことが判明した。しかし、それでも瀋陽市は中国北東全体の中で、下水処理に関しては最も進んでいるとされている。



“下水道”と呼ばれる川

遼河の支流である太子河は、鞍山、遼陽、本溪といった工業市を流れている。政府調査団によると、地元の工場などが、化学汚染物質を含んだ汚水を太子河に流しているという。

毛氏のレポートによれば、現在は、水汚染防止に対する十分な技術基準制度が中国にはない。今の下水排出に対する基準は非常に低く設定されているため、汚染業者でさえその基準を満たすことができるようになっており、未だに汚染がなくなる。結局は、工業汚染業者が満たせる基準設定ではあまり意味がないと、現地の環境アナリストは言う。

中国政府はこの問題の深刻さに気付き、対処しようと努力をしている。11 回目の国家 5 年計画 (2006-2010) の中で、中国政府は 1,500 億人民元 (約 200 億 US ドル) を国の下水処理に割り当てるとしている。今年 9 月 10 日には、中国国家環境保護総局が地方自治体に、下水システムの基準見直しについてのアドバイスを求める書簡を出している。

写真：遼寧省、海城市の Ganwang 村。遼河の小さな支流であるこの川に名前は無く、村人たちは“下水道”と呼んでいる。

